



発行  
鳥取県子ども家庭育み協会  
広報委員会  
第21号

## ココロのたからもの

鳥取県子ども家庭育み協会 副会長(調査委員会 委員長) 中 村 緑

「先生、おはようございます。」子どもたちの元気な声とその笑顔を見ると、心地よい安心感・心温まる幸せを感じます。「園長先生はこの部屋で毎日お勉強してるの?」「ここで一人暮らし?寂しいね。」「この部屋は黙って入ったらいけないだよ。それに静かにせんといけんし……」など、子どもなりに新米園長の私を気づかってくれる言葉に、つい笑みがこぼれます。

保育所保育指針の第1章・総則にある保育所の役割。「入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。」今の時代に、子どもの最善の利益・その笑顔を守るため私たちは何をすべきか、どうあるべきか考えさせられます。一人ひとりの発達を保障する事、安全に保育する事、保護者支援、食育、小学校との連携、地域とのつながり、自己評価・園評価など、保育所の役割もより一層拡充し、いろいろな機能が求められてきています。そして、H27年度からは「子ども・子育て支援新制度」がスタートします。新たな制度の中で、これまでの保育がどう変わるのか、どこが違うのか不安や戸惑いはありますが、時代が変わっても家庭・地域を取り巻く環境の変化が生じても“子どもの心”は変わりません。子どもにとって幼い時の安心感、温かさが……、大人にとっては子どもとのふれあいや子育ての楽しさ、喜びが……、お互いの“ココロのたからもの”になるよう、人を大切に、人とかわり、学び、育て、育てられる自分でありたいと思います。

保育制度が大きく変わろうとしている今、鳥取県子ども家庭育み協会が私たち保育士をつつむ大きな力として今後も発展していきますように、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

県内保育所(園)実態調査			
【調査時点】平成26年6月1日			
【調査対象】県内保育所(園)	調査対象園	164園	
	有効回答園	128園	(回収率 78%)

今回、育み調査委員会としてH26年6月に「県内保育所(園)実態調査」をさせていただきました。多忙な中、128園からご回答をいただきました。集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

### 結果から見えてきた事 (全体的な考察)

年齢別の単独クラスでの保育はさまざまな事情から難しくなり、混合クラス構成での保育形態がみられます。その混合クラスにする年齢もさまざまです。また、食物アレルギーを有する子どもが増えてきています。「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(労働厚生省)」を理解し、全職員で対応し誤提供がないように努めていかなければなりません。食育では、各園それぞれ創意・工夫し、クッキングなど実体験の食育推進活動を展開されています。防災については、自園の立地場所により必要な訓練は行われていますが、食料・水などの備蓄をしている園は全体の37%程度にとどまっています。皆さんが苦勞しておられる職員研修の時間は、時間帯・時間数ともまちまちでしたが、各園わずかな時間でも確保しようという努力がうかがえます。

詳しいアンケート結果を載せています。今回のデータが、自園の保育の見直し・今後の参考につながれば幸いです。ご協力ありがとうございました。



# 県内保育所(園)実態調査 集計結果

## I. 園の基本情報に関する調査

### (1) 設置状況

公 営	73園
民 営	55園
合 計	128園

### (2) 職員の配置人数、入所児童数をご記入ください。

(単位：人)

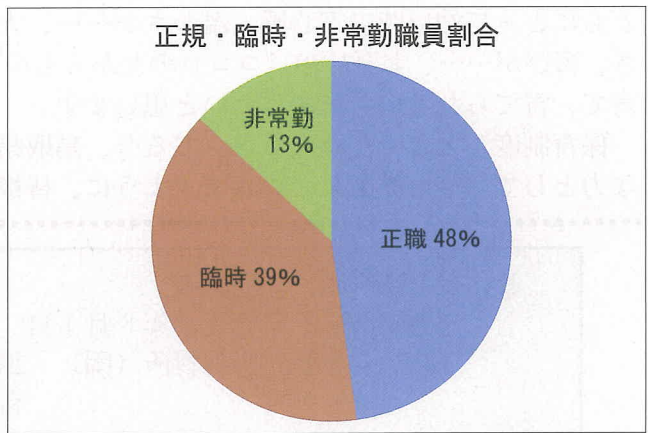
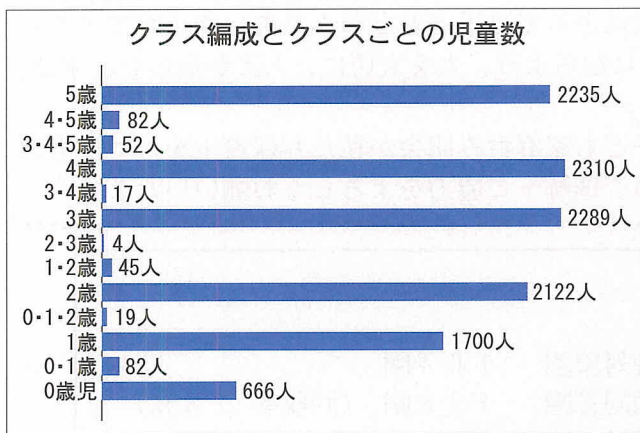
		0歳児	0・1歳	1歳	0・1・2歳	2歳	1・2歳	2・3歳	3歳
児 童 数		666	82	1,700	19	2,122	45	4	2,289
職 員 数	正 職	139	12	192	7	183	7	3	136
	臨 時	121	17	172	8	169	12	3	84
	非常勤	31	0	36	0	34	2	0	21
	計	291	29	400	15	386	21	6	241

(単位：人)

		3・4歳	4歳	3・4・5歳	4・5歳	5歳	フリーの職員	計
児 童 数		17	2,310	52	82	2,235		11,623
職 員 数	正 職	4	100	5	15	126	61	990
	臨 時	3	59	2	7	47	108	812
	非常勤	1	15	0	0	5	122	267
	計	8	174	7	22	178	291	2,069

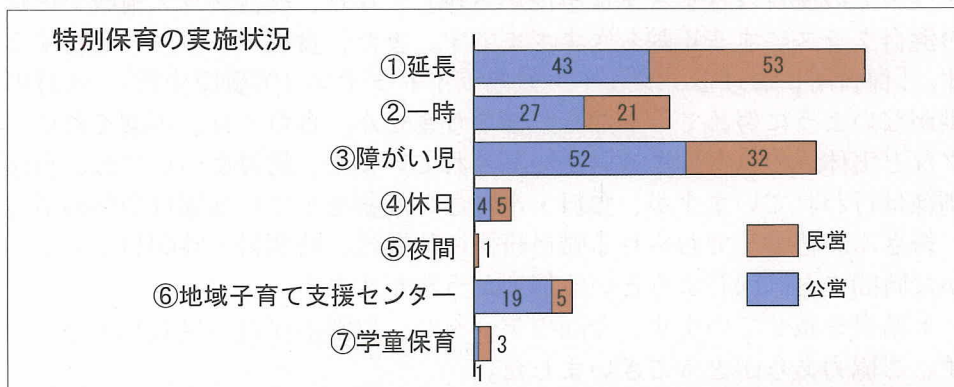
※非常勤職員とは1日6時間未満又は月20日未満の勤務を行う職員とする。

### 職員の配置人員と園児数の割合



職 種	常 勤							非 常 勤				計
	所 長	副園長 補 佐	主 任 保育士	保育士	給 食 担	看 護 師	事 務 員	保育士	給 食 担	看 護 師	事 務 員	
人	127	106	199	1,540	305	44	34	339	110	4	16	2,824

### (3) 特別保育事業の実施状況についておしらせください。(複数回答あり)



II. 食育・アレルギー児への対応について

(1) 食育の年間計画に基づいて、どのような取り組みをされていますか？（複数回答あり）

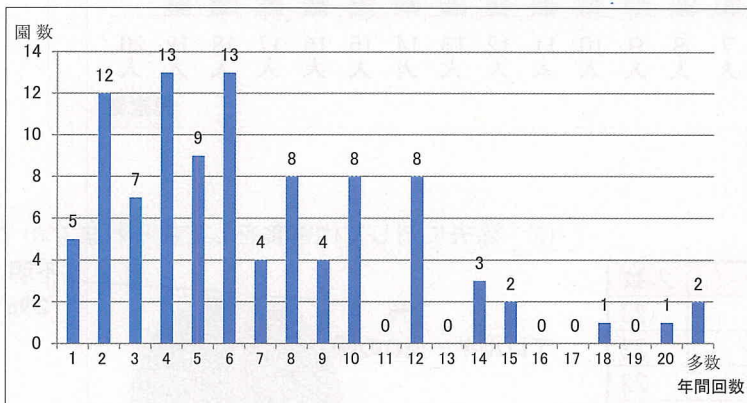
内 容	行っている園数 (128園中)
①菜園	122
②クッキング	113
③試食会	111
④食育の絵本・紙芝居	89
⑤食材の絵カード作成	62
⑥地域と絵カード作成	61
⑦講演会	20
⑧企業によるイベント	9

⑨その他（記載）

- ・食育だより
- ・給食・食材展示
- ・保護者対象調理実習
- ・親子クッキング
- ・残菜提示
- ・調理師による話
- ・学校栄養教諭との連携

(2) (1)でクッキングと答えられた方は年間何回くらい実施、そしてそのメニューをお知らせください。

クッキングのメニュー（上位5位）



	食事関係	おやつ
1位	カレー作り	ホットケーキ
2位	みそ汁（豚汁）	団子づくり （ちまき・もちつき）
3位	おにぎり	クッキー
4位	焼魚	お好み焼き
5位	らっきょう	さつま芋を使った おやつ

- ※その他こんなメニューもありました。
- ・はまちの煮付
  - ・とうふ作り
  - ・手巻き寿司
  - ・ヨーグルトクレープ
  - ・おいり
  - ・きりたんぼ

(3) 食育を行っていくうえで給食室調理員とはどのような連携をとっておられますか？

- ・食育（クッキング）年間計画の作成
- ・食育スタッフによる紙芝居・栄養の話・ボード提示など
- ・職員会・懇談会（アレルギー除去食・離乳食など）
- ・給食室とコミュニケーションをとり理解しあう
- ・子どもの食事の様子の情報交換（つぶやきなど）
- ・子どもとの共食をする
- ・菜園活動の収穫物の調理
- ・行事の事前うちあわせ・協力・役割分担
- ・クッキング活動をする
- ・園児の体調にあわせた食事の配慮

(4) 食育についてどのようにお知らせしておられますか？（複数回答あり）

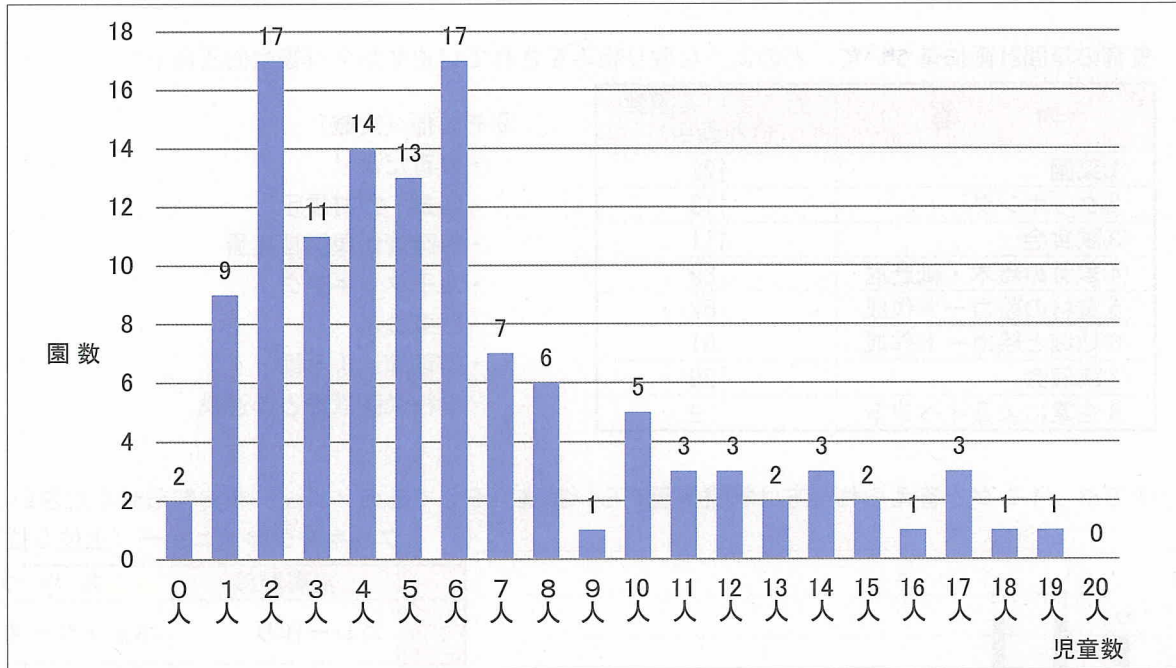
内 容	行っている園数 (128園中)
①給食だより	119
②試食会	104
③献立表について	92
④園だより	86
⑤クラスだより	56
⑥給食アンケート	37
⑦講演会	21

⑧その他（記載）

- ・サンプル展示
- ・レシピ集配布
- ・保護者研修会
- ・クッキングの様子を文書や写真で知らせる
- ・菜園活動
- ・給食参観
- ・入所説明会
- ・調理実習



(5) 貴園のアレルギー除去食対応をしておられる児童数をお知らせください。

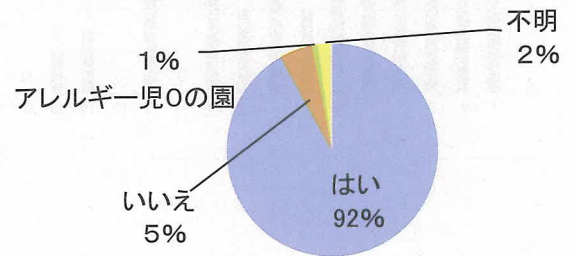


(6) その除去する食材はなんですか？

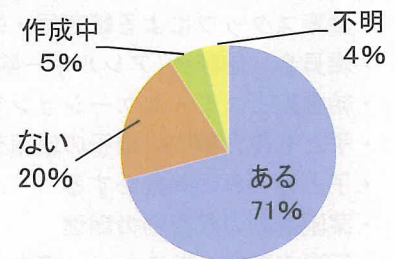
内 容	人数	内 容	人数
①卵	120	⑥果物	23
②乳製品	84	⑦ナッツ類	22
③甲殻類	60	⑧大豆	22
④小麦粉	41	⑨肉	20
⑤魚	25	⑩ソバ	9

<その他>  
 ・ゴマ(4) ・魚卵(4) ・芋類(4) ・貝類(3)  
 ・米(2) ・トマト(2) ・わかめ(1)  
 ・ほうれん草(1) ・とうもろこし(1) ・クロレラ(1)

(7) 除去に対して代替食をしておられますか？



(8) アレルギー除去対応チェックマニュアルはありますか？



(9) 子どもの健康を考えていくうえで、体づくりとして園で毎日しておられる活動があればお知らせください。

運 動 関 係		保 健 衛 生 関 係	栄 養 関 係
マラソン	リトミック体操	健口体操	菜園活動
かけっこ・ランニング	ラジオ体操	紅茶うがい	クッキング
体操	ムーヴメント	フッ化物先口	献立の栄養・食材調べ
リズムあそび	雑巾がけ	手洗い・うがい	カミカミタイム
運動あそび	ベビーマッサージ	薄着の励行	朝食チェック
散歩	戸外あそび	歯みがき指導	栄養当番活動
裸足保育	ぞうり保育	健康チェック	
		乾布まさつ	

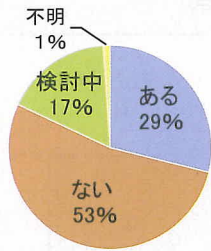


Ⅲ. 防災について

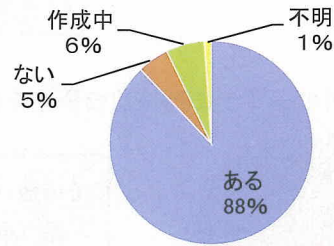
(1) 園で行われている非常災害訓練の種類は？（複数回答あり）

訓練の種類	園数	訓練の種類	園数	訓練の種類	園数	訓練の種類	園数
地震	127	台風(暴風雨)	112	津波	21	竜巻	2
火災	126	風水害	103	山崩れ	16	プール事故・水難	2
不審者	126	大雪	101	原子力災害	9	灯油もれ	1

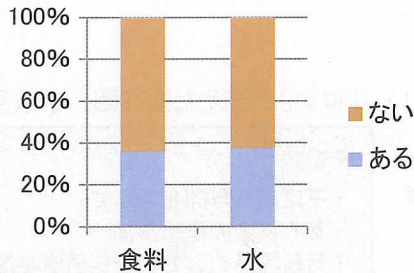
(2) 地域や行政との合同避難訓練はありますか？



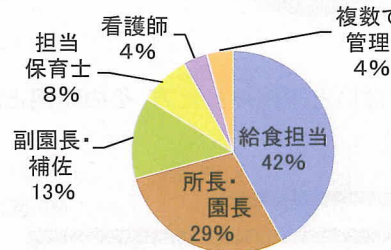
(3) 防災のマニュアルはありますか？



(4) 園としての備蓄はありますか？



(5) 備蓄の管理はどなたがされていますか？



(6) 避難訓練の時、何を持って避難されていますか？全てご記入ください。

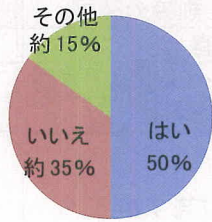
(単位：園数)

名簿関係		避難時必要な物		避難後必要な物	
園児名簿・緊急連絡カード	113	救急セット(医薬品)	68	着替え(オムツ・衣類)	24
出席簿(視診簿)	26	携帯電話	44	折り畳みタンク(水用)	2
職員名簿	5	避難旗・誘導旗	26	食料(除去用)	1
保護者リレー電話帳	4	ラジオ	23	カイロ	1
クラスノート	1	非常持ち出し袋	22	水	16
		拡声器	20	食料	13
		懐中電灯	20	筆記用具	10
		笛	17	ビニールシート	8
		おんぶひも	11	ビニール袋	8
		軍手・ゴム手袋	9	毛布・ブランケット	7
		子どもの靴	9	紙皿・紙コップ	7
		防災ずきん	7	おやつ	4
		避難車	7	ロープ	4
		誘導ロープ	5	携帯トイレ	3
		マスク	3	ローソク	3
		時計	3	ハサミ	3
		ヘルメット	2	ミルク・哺乳瓶	2
		ハザードマップ	1	携帯用浄水器	2
		カップ	1	お金	2
		帽子	1	ガムテープ	2
			1	電池	2



IV. 人材育成について

(1) 新規採用の保育士に専任の保育士をつける必要性を感じておられますか？



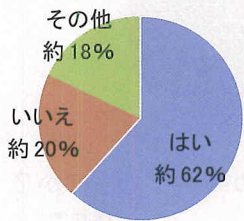
その他

- ・不安は感じるが専任保育士を配置する余裕はない… 6 園
- ・人によっては必要 … 1 園
- ・エルダー制の必要性を感じる … 1 園
- ・新規研修があるとよい … 1 園
- ・今年度新規採用者無し … 2 園

※エルダー制

数年年上の先輩職員が教育係(エルダー)となって新入職員と2人1組なり、実務指導だけでなく職場生活上の相談役も担うことが多い。

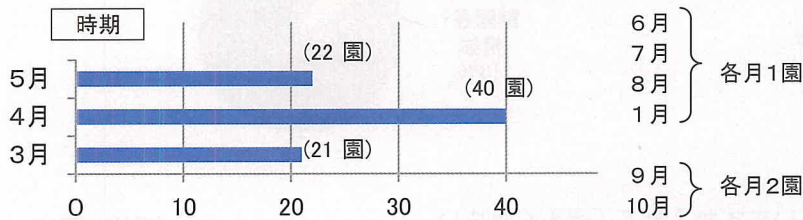
(2) 新規採用の保育士に勤務前の研修を設けておられますか？



その他

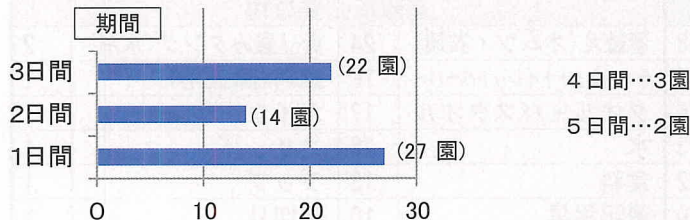
- ・県、市主催の研修等を勧めている… 3 園
- ・今年度新規採用者無し … 3 園

(3) (2)ではいと答えられた方、その時期と期間をお知らせください。(「はい」と答えた園79園 複数回答あり)



その他

- ・不定期、年間を通して … 2 園
- ・育み協会の研修参加 … 1 園
- ・行政職員としての新採研修参加… 1 園
- ・秋に園内公開保育 … 1 園
- ・記入なし … 5 園



その他

- ・外部研修参加 … 2 園
- ・育み協会の研修参加 … 1 園
- ・前期4日、後期3日 … 1 園
- ・年3回、4回、5回、6回 …各1園
- ・1回2時間程度 … 1 園

(4) 研修報告、職員会、園内研修など、どんなふう to 時間を設けておられますか？

※この設問に関しては、細かい時間帯に分類すると非常に多岐にわたるため、傾向としてまとめました。

時間帯としては、大きく「園児の昼寝の時間帯」と「夕方から夜の時間帯」とに分けられました。

- 昼寝の時間帯**
- ・13：00～15：00の間で1～2時間程度という園が最も多い。(延べ183園)
  - ・中でも多かった設定時間…13：30～14：30 (34園)
  - 13：30～14：45 (30園)
  - 13：30～15：00 (36園)

- 夕方から夜の時間帯**
- ・遅番以外の職員の勤務終了後に1～2時間程度という園が最も多い。(67園)
  - ・中でも多かった設定時間… 17：30～19：30 (13園)
  - ・会の終了時刻は19：00～20：00が最も多いが、20：00以降という園も9園あった。

その他

「午前中に行事があった日の午後に4時間」と、たっぷり時間をとっている園があったり、「土曜の午後に2時間程度」という園も、少数ありました。



## 自由意見

貴園で一番力をいれておられる事、今年度、力を入れようと思っておられる事をお聞かせください。

自由意見にご記入いただいた中で、9項目に関する回答が多くありました。多く回答のあった順に①～⑨の番号をつけさせてもらい、その主なものを抜粋して記載しています。内容として兼ねているものもありましたが、こちらの判断で項目を見きわめ記載させていただきました。また、その他として“こんなことにも力を入れている”という意見もあげさせていただきました。ご参考にしてください。

### ①保育内容に関する事

- 一人ひとりの子どもたちにそれぞれの発達に応じた学びを保障する
- 年齢、発達にあった遊びの提供
- 五感を大切に体験活動を多く取り入れる
- 保育内容のアップに心がければ、環境・研修・人材・行事などすべてがよりよくなる
- 遊びコーナーの工夫（じっくり遊びこめる遊びの内容・場所・友だち関係の見直し）
- 保育テーマ「元気なからだ」と「豊かな心」
- 「からだ・こころ・なかま・やるき・こんき」の5つのキーワードを大切に活動

- 民間移管にむけての共同保育を実施する上での保育内容
- 遊びきる子どもをめざして
- 絵本での取り組み
- わくわく体験
- 主体性を育てる
- 生活リズムづくり
- 仲間づくり
- 異年齢活動
- 体力づくり
- 音楽療法

### ②人材育成に関する事

- 自己評価の工夫
- 職員間（正職・臨職・パート）の連携
- エルダー制により、新人職員エルダーの育成
- OJT等活用し、人材育成を図る

- 人材育成として「あいうえお」を心得として保育にあたる
  - ㊦愛情 ㊩いたわり ㊪美しい
  - ㊫笑顔 ㊬穏やかな態度

### ③環境に関する事

- 全面改築工事のため、戸外遊び場所の確保
- 保育目標に体力づくりを掲げているので、室内でもできる運動遊びに力を入れたい
- 自然環境をいかした保育
- 自然の中でのびのびと遊ぶ
- 子どもの年齢にあった環境づくり

- 子どもたちが遊びに夢中になり、十分遊びきる事ができる環境づくりの工夫
- 子どもが過ごしやすい環境を
- 子どもに対しての危険回避
- 衛生的で安心・安全な対応をするために
- 労働環境

### ④研修に関する事

- 園内研修（人権保育・保護者支援・保育の質の向上）
- ケース検討会
- 異年齢活動の反省
- 親子の愛着関係づくり

- 会議を充実させ職員間のコミュニケーションを図る
- 保育のスキル格差があるため複数での関係の中で話し合いが出来にくいので、年齢別での話し合いをしている

### ⑤家庭支援・子育て支援に関する事

- 子育てサークルを開始し、職員協力しながら取り組む
- 家庭支援、保護者との連携、懇談会

- 情緒の安定につながるよう親子の時間（毎月15日ふれあいの日）を大切にもらう
- 子どもとの愛着関係づくり

### ⑥小学校、地域とのつながりに関する事

- 保小連携、スクラム教育
- 地域との連携、交流、地域の方と共に子育てを

- 園児、保護者、地域等、皆が安心・安全で地域密着の園となる

### ⑦人権保育に関する事

- すべての活動を人権の視点にたち、一人ひとりの人権を大切にする保育に取り組む

- 自尊感情を高めていく

### ⑧食育に関する事

### ⑨障がい児保育・支援が必要な子への配慮に関する事

- 保育者間の連携を密にした一貫性のもとでの保育、障がい児保育の取り組みの充実

### その他

- 祖父母ボランティア、地域ボランティアによる、いろいろな行事
- 公立よりスムーズに保育を受け継ぐ
- 防災、防犯計画と対応

- 研究発表、公開保育
- 楽しい保育園、笑顔あふれる保育園
- 伝統芸

（調査委員会 中村 緑 門脇智子 眞田かおる 政田淳子 谷浦千加子 佐藤比登志）



# 第62回鳥取県保育推進研究大会

ひかり保育園 村島 満

平成27年1月18日(日)、倉吉市未来中心を会場に第62回鳥取県保育推進研究大会が開催されました。今年度は県内から保育関係者約670名が参加し、終日にわたって充実した研究大会となりました。

開会式では、お忙しい中、平井鳥取県知事、石破地方再生担当大臣にもご臨席頂き、ご祝辞を頂きました。

続いて行われた表彰式では、21名の方々が大橋会長より鳥取県子ども家庭育み協会長表彰をお受けになりました。永年に渡る保育会へのご貢献に改めて感謝申し上げます。

開会式後の講演会では、聖徳大学児童学部児童学科教授小田豊氏より「これからの幼児教育を考える」と題してご講演を頂きました。



いよいよ新年度からスタートを切る保育新制度。新しい仕組みの下で、保育所は今まで以上に保育の「質」が問われることになりました。しかし、そこで問われている保育の「質」とはいったいなんだろう？正しく理解している保育者は案外少ないのではないかと

思います。一方で「質」を問うている側の社会のほうでも、問うている「質」の中身が今一つ定まっていけないようにも見えます。また、幼稚園や保育所でも共通の要領や指針があり、ベーシックな部分で共通しているとはいえ、幼児教育に対するスタンスには以外と幅があり、いろんな人がいろんな事を言う、ある種の百家争鳴状態にあることも問題を複雑にしている一つの原因かもしれません。

小田先生のご講演では、そのよ



うな保育の「質」を廻る議論に付き物の「何か噛み合わない感じ」を整理し、新制度下の保育所、子ども園が何を中心に据えて保育を進めてゆくべきかについて、確かな方向性を示していただいたように感じます。一人ひとりが幼児期の学びについて改めて考えてみる良い機会ともなったのではないのでしょうか。

## 第1分科会に参加して 「これからの 幼児教育を考える」

太養保育園 千石 祐正

第1分科会は、聖徳大学児童学部児童学科教授小田 豊先生を講師として、午前の全大会の同氏の公演をもとに、前半は、グループに分かれての話し合い、後半は、話し合った内容の発表と質疑応答、まとめという形で進められました。討議の柱としては、①午前の公



演を聞いての感想、②疑問に思うこと③保育の質について、自分達の保育園でどのように捉え、どのような実践をしているかの3点について話し合いがなされました。

質問の主なものとしては、4月から始まる新制度と保育園の関係、5年後に保育はどうなっていくのかというようなものがありました。

先生のお答としては、5年間で保育が変わる根拠として。今後5年間の期限付きで保育教諭の養成がなされる。5年後に保育士、幼稚園教諭、保育教諭、の3つの資格が現在のままで変わらないとは、考えにくい、必ず変わる、ということ、保育士のみなさん一人ひとりの関わってくる問題となるということでした。

感想として、この分科会では、グループ討議を行うことで、一人ひとりが意見を述べたり、他の保育園の取組み、考え方を情報交換するという意味では非常に有意義な時間になったと思いましたが、

時間があれば、保育新制度と今後求められる保育の質について、小田先生のお話しをもっと詳しくお聞きしたかったと思いました。



### 第2分科会に参加して

大和保育園 藤澤 美和

第2分科会では、「子どもと家庭をめぐる今日的課題と具体的支援」と題して社会福祉研究所副所長・教育福祉研究室室長 上原

文先生に学びました。

年々増加しているように感じるクラスの中での気になる子。専門機関につながるほどではなかったり、専門機関につながっても具体的な対応の仕方を伝えられなかったりすることが多い現状で、毎日一番近くで一番長く子どもを見ている「私たち保育者が対応のエキスパートにならなくては救えない子どもたちがいる」という言葉が印象的でした。

「気になる子は、気にして、すぐにその子に向けた配慮を始めなければならぬ」「診断名を特定できなくても支援は十分に始められる」「具体的な工夫を始めることが第一」という観点から、「結論から優しく短く話す」のように、保育士の話し方、声のトーン、保育室の物の配置の仕方、一日の保育のスケジュールなど、環境を整えることの大切さや、わかりやすく子どもたちに伝える沢山の工夫を、一つ一つ丁寧に、実践事例に



基づいてお話してくださいました。また、母子関係の希薄さによる落ち着きのなさを見せる子の割合も増えているというお話には、担当するクラスの子の姿が何人も浮かんできました。担任に1対1の関係性を求めがちで、困ることをして気を引くと言う行動の意味が分かり、その子への対応が明確になりました。

この分科会に参加できたことに感謝しています。「これでいいのか」と悩みながら子どもたちに対



応していた私が、まさに聞きたかった内容のお話でした。子どもに関わる専門職として重要な役割を持つ仕事であることを再認識し、自分の置かれた立場で工夫し、実践していきたいと強く思いました。

### 第3分科会に参加して

ひばり保育園 飯塚 幸花

講師にNPO法人こどもの森理事長 吉田隆子氏を迎え、「家庭支援における子どもの食と栄養」と題して講演をして頂きました。

吉田氏は子ども達と一緒に食育の実践活動をする場として「こどもの森」を設立され、食育クッキングを通して子育て支援活動を行っておられます。

いつの時代も変わらない子どもへの食の悩みとして、「食が細い」「食欲のない子」「好き嫌いが多い」「噛まないで食べる子」などがあるが、大人は子どもになんでもよ

く食べて大きくなることを求めています。子どもが自ら食べたいという本来の食行動が上手く出ていない原因は、コンビニなどの普及により、野菜の育ちや姿を見ずに調理されたものが手に入り、野菜が身近に感じられないということだと思います。野菜がいかに身近に感じられるかが大事であり、野菜との関わりを作ってあげること、「食べなさい」という言葉を使わずして自ら食べられ、自信に繋がりが、それが子どもの心を満たす食事になるそうです。

自園でも菜園活動やクッキングを通して、自分が育て、収穫し、調理するという経験をする事で初めは苦手と言っていた子どもが自分から進んで食べる姿を目にします。改めて体験の持つ力と重要性を認識しました。

体験を通して子どもに身につけてほしい能力は、食べ物を選ぶ力、食べ物の育ちを知る力、料理する力、味がわかる力、元気な体を感じ

じる力の5つで、それらを身につけることが「生きる力」に繋がるということです。色分けされたランチョンマットを用いた主食・一汁二菜の配膳や葉物野菜をちぎるなどの少しのお手伝いをしてもらうという身近な取り組みを教えてくださいました。

味覚教育についてもいかに乳幼児期が大切かを知り、これからより一層子ども達の食育に力を入れていきたいと感じた有意義な研修でした。

### 第4分科会に参加して

赤碕保育園 徳田 憲生

一斉に何かをさせる保育ではなく、子ども「一人一人」の興味から活動が広がっていく。そういう主体的な遊びの展開を可能にするのは、まず、一人一人の「子どもを見る」ということになります。

そのためこの分科会では、参加者一人一人が園で子どもが遊んでいる写真を持ち寄り、それについてグループで話し合い、子どもの興味から活動を展開していく可能性について学びました。

まずは各グループで写真を見せあい、子どもが何をしているのか、何を感じながらその遊びをしているのかについて想像し、話し合いました。次に活動にタイトルを付け、そのトピックを中心に(例えば「砂遊び」)連想する言葉をつなげていき「ウェブ」を作っていきます。「子どもだからこんな活





動は難しい」とか、「現実的じゃない」という思考の制限を取っ払い（それが難しいかどうかは子どもが決めますよね）ウェブを広げていくことで、子どもの活動を充実させるいろんな可能性を準備することが出来ます。

子どもは一人一人が違うからこそ、その関係性の中で学びあっていきます。そして、その一人一人が表現していることは、必ず何か意味があるはずですよ。

大会前日に青年部のメンバーが集まり、それぞれの保育園での取り組みについて話し合う機会があり、その中で「子どもとことん付き合ってみる」という話ができました。大人にとっては意味がないように見えることでも、その子に付き合ってみることで、子どもが何に面白さを感じているのかが分かることがある…。

相手は他者であり、絶対に分かり合えないという前提に立ち、だからこそ相手を理解しようと対話

をしたり、とことん付き合ってみる。そこで初めて「こうじゃないだろうか」と見えてくることもある。そうやって大人も子どもから学び、変わっていくとする。そういう探究的な大人とのかかわりの中で、子どもも探究し、学んでいくのではないだろうか、改めて感じました。



# 各研修会報告 (8月～11月)

## 第2回障がい児保育 研修会に参加して

郡家保育所 山下小枝子

平成26年度鳥取県保育所(園)

第2回障がい児保育研修会が8月30日(土) 国際ファミリープラザ 8月31日(日) 福祉人材研修センターにて開催されました。

「親子の愛着形成について」行動の特徴と援助」というテーマで、福山市立大学教育学部非常勤講師、田丸尚美先生をお迎えして講演をしていただきました。

田丸先生が相談の仕事で出会ったさまざまな子どもたちの行動を通して、

1、虐待的環境で育った子どもによく見られる特徴

2、愛着形成につまずいた場合の  
とらえ方

3、愛着の形成と発達  
4、虐待の予防と早期発見  
5、虐待された子どもと家族への  
支援

の5つの項目に分けて、具体的に分かりやすく話されました。

私たち保育者に何ができるのか。園では、虐待まではいかないが「不適切な養育」はよくあります。大事なことは虐待かどうかよりも、





保護者の養育を段階的に支えてい

くことで、それには保護者に、いつでも子育ての不安や悩みを相談できる安心感を持ってもらうこと。

保護者の気持ちや抱えている生活に共感を寄せつつも、子どものいところを伝え、子どもの見方がプラスの方向に向くような関わり方をすること。そして担任だけが抱えこまないで、園内のチームで対応し、専門機関との連携を取りながら対応していくことが大切なことを話されました。

「いい親になろう。ではなくて幸せな親になろうね。と伝えていきましよう。」という言葉がとても印象的でした。

いろいろな悩みを抱えた保護者に寄り添い、子どもたちの「どうせ僕なんか、私なんか」という思いを保育の中で変えていき、その子の居場所があるクラスづくりをしていくこと、笑って過ごせる時間を保証していくことなど、たくさんの方のことを学ぶことができた研

修会でした。

## 第2回乳児保育

### 研修会に参加して

北谷保育園 小椋みゆき

平成26年9月6日(土)鳥取市福祉人材研修センター、平成26年9月7日(日)米子市国際ファミリープラザにて、白鷗大学教育学部発達科学科児童教育専攻教授の高橋美保先生に「発達の連続性と食育の連続性を問う」について講演をしていただきました。

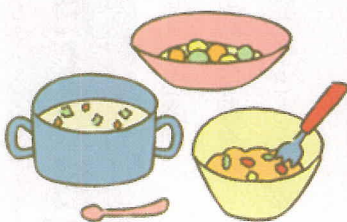
研修では、食育とは何か、保育とは何かということを中心に、各年齢の発達や発達をとらえるポイント、保育のねらいや援助の仕方など、わかりやすく具体的に教えていただきました。

5〜6ヶ月の赤ちゃんのよだれは消化ができるようになったサイン。離乳の完了は乳離れではなく咀嚼力で見極めることが大切であ

る。離乳食の与え方は放り込んだり、ねじこんだり、スプーンを上唇にあてる食べさせ方をすると丸飲みの癖になるので、下唇にスプーンを置き、子どもが自分の意志で自ら唇を閉じるのを待つ。給食の良さは、みんなと同じものを食べ、共感ができること。社会に出るステップとしてとても大事なことである。体験したことが一生の癖になり、子どもは体験したように食行動をしていくため、子どもがどんな環境で食べているのか考え、子どもの意欲をどう育てていくのが重要であるというお話しでした。

園の子ども達の食生活にはどんな問題があるのか考えた上で、自我が芽生える3歳までの体験が子どもにどんな力をもたせるのか、また、自分を意識し葛藤を経験して他者を理解し始める3歳から就学前にかけて取り組んだ食育活動の内容が、発育や発達にどう影響するのかなど、食育内容の検討の

必要性を改めて感じました。私たち保育士の役割の大きさを再認識し、今後も子どもの姿をよく観察し、職員間・家庭との連携を図りながら継続的に食育活動に取り組みんでいきたいと思いました。





## 初任・初級保育士

### 研修会②・③

賀露みどり保育園 和田 知之

育み協会青年部では毎年、保育園に勤めて1年～5年目の初任・初級保育士、又は自園の保育、自分の保育を見つめ直す機会があればと考えられている保育士を対象に年3回の継続した研修会を企画しています。

2回目の研修は10月21日に参加者が東、中、西部に分かれ、指定されたそれぞれの実習園で1日保育実習を行いました。自園とは異なる環境設定や、実習先での情報交換等を通して、今までとは違う子ども達へのアプローチの仕方や自分の考え方に對しても柔軟性を持つ事が出来たようでした。

3回目の研修は10月22日に倉吉未来中心に於いて、1回目を引き続き、有限会社キッズいわきの岩城敏之氏に「子どものあそびをた

かめる大人の関わり」をテーマに午前中は講演、午後からは実際におもちゃを使った遊び方の実技やグループに分かれて意見交換を行ないました。

講演では、保育士の関わり方として自分が設定した環境で子どもが集中して遊んでいるか、あそびが見つかからない子どもがいないかを見る事が大事だと言われていました。

実技では、5人程のグループに分かれ、岩城さんに御持参いた



おもちゃを使って実際にあそんでみました。先生が持参されたおもちゃは子どもが楽しみながら瞬発力や記憶力、思考力等が養われて成長できるおもちゃで大人でも十分に楽しめるゲームでした。

今回の全3回の研修で学ばれた事を、「学んで終わり」ではなく園に持ち帰り、園長先生をはじめ、ベテランの先生方、又後輩の先生方と更に研鑽を積まれ、保育に活かしていただきたいと思います。

## 第2回食育研修会に

### 参加して

すすく保育園 天野 純子

平成26年度鳥取県保育所(園)

第2回食育研修会が11月30日(日)

倉吉市「倉吉未来中心」にて開催されました。講師に絵本と食育「はらぺこあおむし」でお馴染みの管理栄養士…衣笠優子氏 調理師・フードコーディネーター…荒

金友香氏 介護福祉士…福永康子氏をお迎えして「保護者を取り込む食育」絵本を使った食育活動の紹介」というテーマで講演をしていただきました。

講演の冒頭に「今日は楽しい研修にするのでその中でヒントを見つけてもらい食育に役立ててください。」とのあいさつで始まり期待で胸が膨らみました。そして「元氣な人が食事作りや食育に関わるのが一番だと思う。」との一言にとっても共感を覚えました。

絵本の読み聞かせでは「おべんとうバス」「14匹の朝ごはん」「おばあちゃんのおせち」という絵本の紹介があり、子どもたちにとどのように伝えていったらよいのかとても参考になりました。

また「ポコポコドーナツ」では、読み聞かせをしながらドーナツ作りの実演が行われ、親子で楽しくおやつ作りをしてみたくなるような絵本の紹介をしていただきました。



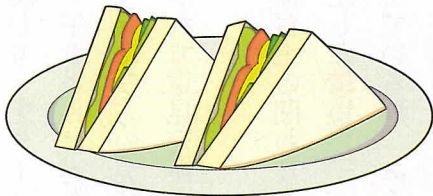
次に「作るの大好き食べるの大好き」では、参加者全員が食パンの間に食材を挟んでサンドイッチ作りを体験しました。さらに出来上がったサンドイッチを、ラッピング用紙できれいにラッピングするコツを教えてくださいました。家庭や支援センターなどで役立つような楽しい内容でした。

その他、温かい雰囲気に出された会場の中で、食卓の演出方法を教えていただき、ちょっとした工夫やおもてなしが、心を温め楽しい食事につながるのだと実感しました。

まとめとして保護者を取り込む食育とは親が基本であること。そして私たち保育者はそれぞれが得意な分野を発揮し発信していくことがとても大切であることを知りました。今回の研修で得たことを今後の食育活動に活かしていこうと思います。

最後に、冒頭でのごあいさつの通りとても楽しい研修にしていた

だきありがとうございます。絵本大好き♪食べるの大好き♪作るの大好き♪  
はい!!



「おもちゃ遊び」  
木や 高橋 克己

第4四回目の「おもちゃ遊び」です。

この原稿にて最終回でありながら奇しくも今月（平成27年1月）にて木のおもちゃ専門店「木や」を閉店することとなりました。しかし私自身一生おもちゃ屋でありたいと思っています。今を一つの区切りとしてその思いをこの原稿に込めさせてもらえればと思います。

平成10年の開業以来、本当にたくさん子どもたちにかかわらせて頂きました。私のおもちゃ屋としての知識やノウハウは全てといていいほどにその子どもたちに教えてもらったように思います。成長・発達に応じたおもちゃとは、遊びやすい環境とは、そしておもちゃとは「何か」をです。その中で一番大切なことはやは

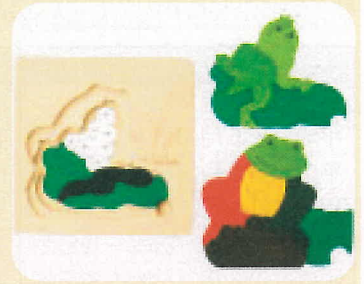
り大人、保育者の子どもへのかわりであると考えます。

その理由は子どもへの大人のかわり如何によっておもちゃの存在の意味あいには変化してしまうからです。私の考えるかわりとは、子どもにおもちゃ遊びの楽しさをいかに伝えることができるかなのです。

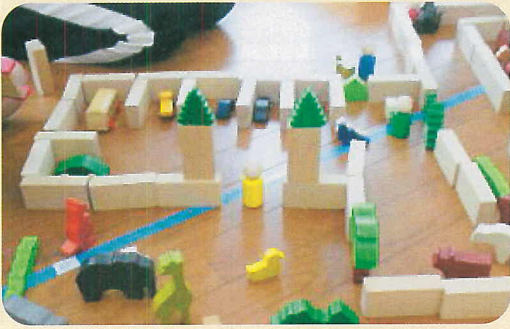
その楽しさを子どもに伝えることが出来た時にこそ子どもの楽しさの追求活動である遊び、いわゆる主体的活動が始まっていくのだと思います。

例えば課題的遊びであるパズルでいうならば幾多の困難を乗り越えて、解き明かして、そのプロセスを経て最後のワンピースをはめ込んで完成させた時のあの達成感、爽快感、開放感という、いつの時代も色褪せることのない楽しさのあり方、喜びのあり方なるべく多くの子どもたちに伝えて頂きたいと思ひますし、





表現的遊びである積み木遊びでいうならば積み木一つ一つのカタチ、規則性を生かした積み方の楽しさのあり方、はたまた何かしらをイメージして積み木によりかたどっていくという極めて創造的な楽しさのある時間を、子どもたちと多く共有して頂きたいのです。



課題的遊びにせよ、表現的遊びにせよ子どもたちを楽ししさのあり方を伝えるかわりをし、子どもの遊びが始まっていく、そしてそのプロセスにたくさん体験があるとと思うのです。

もしもそこに胸のときめきがあったならば、自分自身の楽しみ、喜びのあり方(価値観)につながっていくのでしょうか。

また、こどもは遊びの中でいろいろな発見をします。もしも、その発見が不変の法則を伴うものであるならば子ども自身の心に染み入る理解や認識につながるのでしょうか。

あるいは、子どもは遊びの中でいろいろなことを成し遂げます。

もしも、そこに理解し共感してくれる人がいたならば、子ども自身の自信や自尊心の育みにつながっていくのでしょうか。

子どもが遊びという体験活動を通して様々なことを学んでいくということ、これはいつの時代にお

いても優先されて欲しいと思えます。

その上でおもちゃとは体験の道具であり、その選択は子どもにもどのような体験をして欲しいのか、その願により選ばれて欲しいのです。

大人、保育者が願う体験が「偶然」ではなく「必然」となるために。



これをもちまして第4回「おもちゃ遊び」、最終回となりました。最後まで読んで頂きありがとうございます。

そして長い間、皆様にご愛顧頂き本当にありがとうございます。深く感謝いたします。この場を借りましてのご挨拶をどうぞお許しください。

どこかでお会いしましたら是非ともお声がけください。それではまたお会いする日まで。





# 平成27年度 事業計画

第58回全国私立保育園研究大会(鳥取大会)が平成27年 6 月17日(水)~19日(金)鳥取市「とりぎん文化会館」にて開催いたします。

期 日	事 業 名	場 所	備 考
平成27年 5 月13日(水)	第 1 回理事会	鳥取市 とりぎん文化会館	
平成27年 5 月13日(水)	第58回全国私立保育園研究大会全体打合せ会	鳥取市 とりぎん文化会館	
平成27年 5 月20日(水)	代議員会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年 5 月20日(水)	第 1 回施設長研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年 6 月17日(水)~19日(金)	第58回全国私立保育園研究大会	鳥取県 とりぎん文化会館	全国私立保育園連盟
平成27年 6 月24日(水)~26日(金)	第29回保育を高める研究集会	石川県金沢市	日本保育協会
平成27年 6 月26日(金)	第 2 回理事会	倉吉市 倉吉体育文化会館	
平成27年 6 月26日(金)	第 1 回合同部会	倉吉市 倉吉体育文化会館	
平成27年 7 月 4 日(土)	保育士研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年 7 月 5 日(日)	第 1 回食育研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年 7 月13日(月)	主任保育士研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年 7 月23日(水)	初任・初級保育士研修会①	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年 9 月 5 日(土)	第 1 回乳児保育研修会	鳥取市 福祉人材研修センター	
平成27年 9 月 6 日(日)		米子市 国際ファミリープラザ	
平成27年10月21日(水)~22日(木)	第49回全国保育士会研究大会	千葉県千葉市	全国保育士会
平成27年10月27日(火)	初任・初級保育士研修会②	県内保育所	
平成27年10月28日(水)	初任・初級保育士研修会③	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年11月 8 日(日)午前	第 2 回食育研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年11月 8 日(日)午後	第 2 回乳児保育研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成27年11月11日(水)~13日(金)	第59回全国保育研究大会	山口県山口市	全国保育協議会
平成27年 9 月調整中	第 2 回施設長研修会	未定	
平成27年10月調整中	第 1 回障がい児保育研修会	未定	
平成28年 1 月調整中	第 2 回障がい児保育研修会	未定	

※期日及び内容等については、変更となることがありますので御了承ください。



先日不審者の避難訓練をしたら、年長の男の子が自作の弓矢を背中に挿して飛び出してきた。避難としては間違ってるけど、みんなを守ろうとしたんだらうなあ。

(N・T)

毎年「断捨離」を実行しようとしますが、出すだけ出して途中でいつも手が止まり、古い物に見入ってしまった自分に気づきタイムオーバー：ほとんど元の位置にしまっで終わり。でも、4月以降ゆっくり、本気で断捨離を成功させようと、心に誓う今日この頃です。

(T・H)

A4サイズになって2号目の発行です。紙面作りの参考にしたいと思しますので、以前の判型と比べてのご感想などがありましたら各部会広報委員さんまでお知らせください。

(M・M)



最近疲れてすぐうたた寝。夜中に元気になり、またしても動き出す私。すっかり夜型と化している。でも、また朝が起きれば逆効果!! これって年ですすね?!

(C・N)

育休から復帰し、あわただしく一年が終わろうとしています。頭と体がついていかずもがいていた私ですが、多くの人に助けられながらなんとか過ごせた一年でもありました。温かく励ましてくださった方に感謝いたします。そして、今更ながら、働くお母さんたちに尊敬の念を感じます!これからはそれを支えていけるよう頑張ります!

(M・Y)

いよいよ最後の編集後記となりました。2年前の自分は、役を受けたことでもいいっばいっばいでしたが、2年間の月日の中で多くの方と出会い、いろいろな経験をし、たくさんのことを学びました。

この「子ども家庭育み協会」は人と人をつなぐ大切な場所だと実感しました。これからも、素敵な出会いがあることに期待しています!

(M・N)